

宮城県看護連盟

平成24年5月15日発行

第63号

発行者

宮城県看護連盟

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-2-8-303

TEL:022-293-1720

FAX:022-293-1727

発行責任者：富田きよ子

RENMEIみやぎ

## 50周年記念特集号



(塩釜みなと祭り)



(秋保伝統こげし)



(蔵王のお釜)

# 50年の歩み

宮城県看護連盟

# 目 次

1. 50周年記念式典挨拶（冨田 きよ子）	1
2. 祝 辞	
清水 嘉与子（日本看護連盟会長）	3
高階 恵美子（参議院議員）	5
あべ 俊子（衆議院議員）	7
能勢 和子（日本看護連盟顧問）	8
上田 笑子（宮城県看護協会会長）	9
3. 特別寄稿（齋田 トキ子）	10
4. 連盟活動の思い出	
久光 なみ子	17
鈴木 すい	20
吉田 ますよ	24
鈴木 光子	25
小関 悦子	26
山下 恵子	31
加藤 智治	35
佐藤 由美	39
高橋 千代子	19
曾根 喜代子	23
平間 あき子	24
川村 啓子	26
千葉 和子	27
熊澤 さえ子	35
佐々木 一郎	36
高橋 秀子	40
リ・フォーム連盟	45
宮城県看護連盟と各支部新設まで（高橋 秀子）	46
高橋 仁子	49
高橋 清子	51
冨田 きよ子	53
古内 みよ子	60
鈴木 恵	61
西村 純子	62
阿部 歌子	50
只野 良子	52
関口 英子	55
本地 眞美子	60
藤野 利子	61
5. 宮城県看護連盟50周年記念式典プログラム	65
6. 宮城県看護連盟表彰者	66
10. 宮城県看護連盟年表	70
11. 宮城県看護連盟組織図	84
12. 宮城県看護連盟支部MAP	85

# 宮城県看護連盟50周年記念式典挨拶



## 宮城県看護連盟会長 冨田 きよ子

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年3月11日の東日本大震災は各地に未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。哀悼の意を表しますとともに、被災地の一日も早い復興を願っています。

あらためまして、宮城県看護連盟設立50周年記念式典にあたりご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、日本看護連盟会長清水嘉与子先生、日本看護協会会長坂本すが先生、衆議員議員愛知治郎先生、私達にいちばん身近な県議会議員相沢みつや先生、そして、元参議院議員南野知恵子先生、前衆議院議員伊藤信太郎先生、前衆議院議員西村明宏先生のご臨席を賜り、また多くの会員の皆様の出席のもと、ここに宮城県看護連盟50周年記念式典を開催できますことは誠に喜ばしく光栄に存じます。

戦後の看護の歴史は昭和21年11月に日本看護協会の設立総会が開催されたことから始まります。同年日本国憲法も公布され、看護を取り巻く環境も変化し、看護の政策的課題も多くなりました。昭和34年に「陳情や嘆願の繰り返しでは看護問題の解決にはならない、看護職の代表を国政の場に送り、協会と連盟が表裏一体となって組織的に看護政策の実現のために取り組む」とそのことを目的として日本看護連盟が設立されました。宮城県看護連盟は全国から2年ほど遅れ昭和36年12月に久光支部長を先頭に始まりました。

先輩の皆様方の艱難辛苦（かんなんしんく）を経て、50年を迎えることができました。誠にありがとうございました。

今年度の宮城県看護連盟会員数は連盟誕生以来2082名の大きな会に発展し、そして第22回参議院議員選挙では宮城県加美町出身のたかがい恵美子国会議員を誕生させました。役員や会員はもちろんのこと応援して下さった一般の方々もうれしくて、うれしくて、喜びに沸きました。

昭和40年代前半に仙台ホテルでふかふかの絨毯を歩いて今は亡き愛知揆一先生のところへ陳情のために齋田トキ子先生に連れて行っていただいたのが、私にとって初めての連盟活動でした。あの時の体験が今の私の連盟活動に影響しているのだと思います。先輩達と同じように、つらいことも、悲しいことも、笑いに変えて、会員相互に良い影響を与えながら未来へ育つ会員と一緒に楽しく連盟活動が出来るように心がけております。

昨年は救援物資の届けなどで多くの病院を訪問させていただきました。年末、年始には独立行政法人国立病院機構の仙台医療センター、西多賀病院、宮城病院にも伺い看護部長さん方に看護連盟活動についてお話を聞いていただきました。忙しい中とても優しい対応をして頂きあ

りがございました。

本来なら昨年の総会で50周年記念式典を計画に乗せたかったのですが、大変な災害で会員の同意が得られないのではとの懸念もあり、様子を見て、このような時だからこそ記念行事をすることの意味があると思い、急きょ取り組みました。どうぞご理解を頂きたいと思います。

本年は「辰の年」中国の古典では「草木が順調に成長し、龍のように大きく飛躍する」年でもあります。宮城県看護連盟もこの諺にあやかり、会員の皆様方のご支援とご教示を賜りながら看護職のお役に立つように、51年目の力強い新たな足跡が残せるよう会員一同心一つにして頑張る所存でおります。

この歴史的な記念式典を協会と一緒にしたいという趣旨を日本看護協会の坂本すが会長、そして、宮城県看護協会 上田笑子会長にご理解とご協力をいただきましたことに感謝いたします。また、ご出席の皆様方にはお忙しい中、記念すべきこの日を250名以上の大勢の方々でお祝いすることができますことを御礼申し上げ開会の挨拶といたします。ありがとうございました。



# 宮城県看護連盟創立50周年記念誌発刊を祝う



## 日本看護連盟会長 清水 嘉与子

宮城県看護連盟が創立50周年を迎えられ、記念誌を発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

看護界は長いこと慢性的な看護師不足の上に劣悪な労働環境や恵まれない教育環境などたくさんの問題を抱えてきました。こうしたことを解決するためには単に陳情や請願を繰り返していただだけでは駄目だ、自分達で看護の代表を国政の場へ送ることが必要ではないか、という意識が看護界のリーダー達の中にどんどん高まってきました。そんな中で行われた昭和34年7月の参議院選挙で、林塩看護協会会長と井上なつゑ前看護協会会長の間で一本化の調整がつかずに共倒れになるという結果が事態を早めることになったのでしょうか。同年10月、日本看護協会の目的達成のために政治活動を行う政治団体として日本看護連盟が誕生しました。翌11月から新潟県を皮切りに全国で次々に連盟支部が誕生することになります。そんな中で宮城県看護連盟支部ができたのは昭和36年12月、全国で42番目の結成となっていますから、あるいは初代の久光なみ子支部長さんは支部結成にむけていろいろとご苦労があったのではないのでしょうか。小池ノブ支部長、佐藤歌子支部長、高橋千代子支部長さんまでは私自身余りご縁がありませんでしたが、昭和61年の初挑戦で落選したときの選挙では藤島キシ支部長さんにお世話になり、以後平成元年と7年には吉田ますよ支部長、13年には山下恵子支部長さんにお世話になって当選させていただきました。10年の南野知恵子先生の選挙で活躍された千葉和子支部長、19年の松原まなみさんの選挙で活躍された阿部歌子会長といずれの支部長さん・会長さんも大変努力をしてくださっていましたが、連盟会員の増加や支部活動を活発化させることにはどなたも大変苦労されておられたように思います。そんな中で山下恵子支部長さんが看護職以外の方々にも支援の輪を大きく広げようと努力され、成果を挙げておられたことが印象深く思い出されます。

さて、平成21年の総会で病気静養される見藤隆子会長に代わって連盟会長をお引き受けした時、日本看護連盟は高階恵美子さんを次期参議院選挙の候補として活動することが決まっていました。候補が宮城県出身とあって、宮城県看護連盟会長に就任したばかりの冨田きよ子会長にはどんなにか重いご負担を感じられたことかとお推察申し上げます。特に政権交代によって長期政権を築いてきた自民党が大敗し、国民の大きな期待を担って(?)民主党政権が誕生した時、日本看護協会が自民党を離れ民主党に接近するような態度に変わってしまったことが、あちらこちらで選挙運動のブレーキになり、選挙の結果にどのような影響が出るかと本当に心配をしました。しかし候補者本人の前向きな姿勢はもちろんのこと、冨田会長の大変な努力と

高階候補の地元の皆さんの努力が合わさって、これまでにないような5,671票という高得票を確保してくださいました。これは高階候補が全国で獲得した21万443票に大きく貢献してくれました。

苦しいときにぶれずに力を結集させて得た成果は大変大きなものがあります。看護連盟活動を支えてきた人々の自信にもつながりましたし、高階議員が大きく羽ばたく機会にもなりました。3.11の東日本大震災の直後から、阿部・高階両議員の被災地救援活動や復興への道筋作りにもみせた活躍は誠に見事なものでした。同時に冨田会長率いる宮城県看護連盟が進めた救援活動も会員間の絆をゆるぎないものにしてくれたのではないのでしょうか。長くとも確実な復興の道を皆様と共に歩みつつ、さらに長寿社会で看護職の能力が適切に活用されることを求めて、日本看護連盟は引き続き看護の声を国政に届ける活動を続けて参ります。創立50年を期に、宮城県看護連盟のますますの発展をお祈り申し上げます。



## 宮城県看護連盟 50周年記念誌に寄せて



参議院議員 高階 恵美子

宮城県看護連盟が創立50周年の記念すべき節目をお迎えになられるにあたり、会員並びに関係のみなさまに対しまして、衷心よりお慶びを申し上げます。

人々の暮らしのある限り、絶えずいのちに寄り添い、生きる力を支え続ける看護職一人ひとは、日本国民のための社会保障を実現する立役者とも言うべき尊い存在です。そして看護連盟は、各々がその役割を存分に果たすことのできる法制度体系を整備することによって、国民がよりいっそう健康で文化的な生活を営むことのできる社会環境を創り出し、これを全国津々浦々まで行き届けようと活動する同志の集う組織であります。

長きに渡って凛々と不断の努力を続けてこられた先輩諸氏の栄えある歴史のもとに、現在のような世界有数の保健医療水準が実現され、国民のための福祉基盤が構築されていることを、この機会に改めて認識し、その実績に深い畏敬の念を抱いております。

これまでの看護連盟の足跡を振り返りますと、各々の胸には様々な思いが去来することと存じます。優しく見守り支えてくれた両親・家族、競い合い共に励んだ友そして職場の同僚、懐かしい記憶と共に過ごした人々の笑顔や佇まいまでが同時に浮かんでくるかもしれません。喜びも悲しみも、志を一に時を共有した間柄だからこそ紡ぐことのできた、強くてしなやかな絆によって、私たち看護職は結ばれているように感じられてなりません。

国民の総力を結集して成し遂げた急速な戦災復興とインフラ整備、そして高度経済成長によって、日本国民の生活水準は押し並べて著しい改善を見、家族や地域社会の在りようが変わりました。個々人の暮らし方や社会参加の仕方も多様化し、社会全体の構造的な変革に呼吸を合わせるように、人々の健康状態や保健医療に対するニーズも、50年前とはすっかり異なる様相を見せています。

また看護職にとっては、看護技術を提供する場や就業形態の多様化、難易度の高い看護内容への技術の拡がりや所掌する業務範囲の広範化、看護の学問体系の確立及び成熟に伴う新たな高等教育への移行と生涯を通じた教育体系の整備・拡充、そして資格規定の改正と、まさに劇的とも言うべき大変革を、看護職自らが率先して進めてきた50年だったのではないかと思います。移り行く社会の中であって、時代の一步先へと眼を向けながら、常に人々の傍で、その健康的な暮らしを願って研鑽を続ける看護職の姿は、私にとって誇りでもあります。

とりわけ2011年3月11日の東日本大震災への対応に際しては、自ら被災しながらも毅然と看護の使命を果たさんと行動し続ける多くの看護職に心打たれ、勇気づけられました。また、現地の最前線に立つ看護職や被災者の胸中を、まるで自らも同時に災害を受けているかのように親身になって思いやり、冷静かつ現実的に事態を考察して、物心両面からの支援を続けてくださった全国各地の看護職のみなさまの揺るぎない真心に接し、ひととき強い信頼感を抱くよ



うにもなりました。

人々の暮らしが大いなる自然の中で営まれていく以上、災害は避けがたいものですが、私たちは苦しみを経験し、それを乗り越えようと奮闘することを通して、新たに多くのことを習熟していくに違いないという思いもあります。

耐えがたいほどの痛みをも克服して、人々の苦しみや被害の範囲と規模をでき得る限り最小限に喰い止める方法を見出し、次に起こりうる事態に備えるための知恵を授けていく。そう考えますと、この大きな試練の時を生きている私たちは、次の世代のために、防災や災害対応のための新たな看護政策を創り上げていくという重要な役割を負っているとも言えそうです。

多くの人々が今、震災によって失われた尊いのち、故郷の風景、流した涙の意味を胸に刻んでいます。私たち看護職はさらに、この国に生きる人々の生きる力を支える専門職として、未来に向かってその情熱を結集させ、看護の知恵・経験・技術を堂々と活かすことのできる時代を築き上げていこうではありませんか。

これからは、看護の思いやりの心が社会をけん引する時代です。私はそのような決意を持って、これからも、看護連盟のみなさまとともに行動して参ります。



# 「宮城県看護連盟 50周年記念誌」発刊を記念して



## 衆議院議員 あべ 俊子

宮城県看護連盟発足50周年、誠におめでとうございます。併せて「宮城県看護連盟50周年記念誌」のご発刊を心よりお祝い申し上げます。

昨年の中東大震災という未曾有の災害は、宮城県の皆様をはじめ日本中の人々の心に深い悲しみと傷跡を残しました。宮城県の皆様におかれましては今もなお、ご心痛の中で日々の生活を取り戻すため多くのご苦勞を重ねておられることと拝察申し上げます。

被災地の皆様に少しでも元気を取り戻していただけるようにとの一心で、震災以来、私も国政の場でできることに微力ながら精一杯取り組んでまいりました。復興に向けて解決していかなくてはならない数々の課題がありますが、被災地の皆様の心に負った傷が癒えることも含めた本当の意味での復興に至るには、国を挙げて長い年月をかけた継続的できめの細かい支援をしていく必要があります。暮らしの中で皆様を感じておられる生の声に耳を傾け続け、そしてその声を国政に届け、少しでも政策に反映させることができるよう、引き続きふるさと宮城の復興を常に願い取り組んでまいる所存です。どうか皆様からの忌憚のないご意見をお聞かせいただけますようこの場をお借りして心よりお願い申し上げます。

さて、看護連盟の足跡を振り返りますと「政治活動のできる団体を」との切実な願いのもと設立された日本看護連盟には多くの期待が寄せられ、同時に宮城県看護連盟におかれましてもこれまでその責務に多大なるご尽力を賜りましたことに心からの敬意と感謝を捧げます。

50年にわたる連盟活動の中では、諸先輩方の数々のご苦勞はもとより、昨今の若者の政治離れを思うと、現在も多くの皆様に現場でお骨折り頂いていることと拝察申し上げます。その深い歴史の積み重ねの上にある宮城県看護連盟の皆様の地道で堅実なご努力に心から敬意を表するとともに、その精神が受け継がれ、また新しい歴史が築かれていくことを心より祈念申し上げます。

特に、昨年の中東大震災の折には、被災直後から行政機能がマヒする中、日本看護連盟や日本看護協会をはじめとした全国に広がっている看護職のネットワークの臨機応変な活躍により、多くの的確な情報を得ることができ、必要な支援が迅速かつ円滑に提供されることにつながりました。また自らの被災を顧みることなく、被災地では多くの看護職の皆様が本当に献身的に活躍してくださいました。看護という仕事を選んだ人々の志の崇高さにあらためて敬服をいたしますとともに、このような尊い人々が生き生きと働くことができ、報われる社会を築いていかななくてはとの思いをあらたにしています。

来年は参議院議員選挙の年を迎えます。国政で頑張る看護職の仲間を増やすことは、看護連盟創立の原点である「政治活動のできる団体を」という願いをかたちにすることであり、看護界の長年にわたる悲願でもあります。そのためにも、看護連盟の活動を理解し政治活動を支援することが、結果的に看護界の願いを政策に反映させ、現場が改善されることにつながる——と、一人でも多くの看護職の皆様に実感して頂けるように活動を展開しなくてはなりません。

私自身も引き続き、現場の皆様のお声をお聞かせ頂きながら、そのお声を反映させるべく国政の場で精一杯取り組んでまいる所存です。

50年の節目を迎えた宮城県看護連盟の今後ますますのご活躍とご発展を願いますとともに、宮城県の復興が一步一步確実に順調に進みますことを心より祈念させていただきます。